探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：北広島町立芸北中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
北広島町立芸北中学校	5	39名
北広島町立芸北小学校	7	56名

(R4.11.1現在)

1　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

児童生徒自らが探究する
生活科・総合的な学習の時間の創造
～身に付けさせたい資質・能力の系統表の作成と
ルーブリックによる評価を通して～

②研究のねらい

児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にすること，ルーブリックによる評価を行うこと，生活科・総合的な学習の時間の単元開発・授業改善をすることを通して，自ら探究する児童生徒を育成する。

（2）資質・能力の設定について

身に付けさせたい資質・能力を以下のように整理し直した。

学習指導要領が示す育成すべき資質･能力の３つの柱	芸北小中学校が児童生徒に身に付けさせたい資質･能力
知識及び技能	協働する力 安全・安心をつくる力
思考力，判断力，表現力等	課題解決力 多面的･多角的な見方･考え方
学びに向かう力，人間性等	意志力 自己回復力

（3）取組について

①芸北小中学校「学びのスタイル」の統一

えがく・・・今の自分を見つめ，活動を通して「めざす自分」とその理由，予想される「妨げ」とそれを乗り越えるための「作戦」を考える。

やってみる・・・「めざす自分」になるためにチャレンジする。

ふり返る・・・・「めざす自分」になる（近づく）ことができたかをふり返り，その理由（原因）を考えて次の活動に生かす。

②単元のブラッシュアップ（芸北小中学校全学年の主な単元）

○地域のゲストティーチャーと連携し，児童生徒の実態に応じたワクワクする単元に

○児童生徒から他に働きかけるようにする工夫を

○客観的なデータをもとに振り返り，次の活動へ

③ルーブリック評価

・ブラッシュアップした単元について，ルーブリックを作成し，評価

・ルーブリック評価をしての成果と課題を協議し，来年度活用しやすいようにルーブリックを改善

2　実践事例

―単元のブラッシュアップ―

小学校第５学年　総合的な学習の時間

「協力して活動しよう～せどやま教室～」

（1）単元の目標

自分たちが設定した目標に向けて，協働して効率よく安全に木を運ぶための方法を考え，提案し，実行することを通して，探究的な学習の過程に沿って粘り強く課題を解決するとともに，他者と協力するために大切なことや「せどやま再生事業」について理解し，今後の学習や生活に生かすことができるようにする。

（2）学習の流れ

【えがく】

クラス目標を決め，ワークシートを用いてめざす自分をえがく。

【やってみる】

大人が予め切り倒しておいた木を，児童がのこぎりで規定の長さに切り，軽トラに乗せる。「せどやま市場」に搬入し，木の重さに応じて，地域通貨「せどやま券」と交換してもらう。

木を切る

軽トラへ運ぶ

1　2
3　4

せどやま市場で計量する

せどやま券を受け取る

【ふりかえる】

写真や他者の意見を参考に活動を客観的に振り返り，めざす自分やクラス目標達成に向けての課題を見つけて次の活動に生かす。

※この流れを3回繰り返し，クラス目標の達成とめざす自分へ

（3）ブラッシュアップポイント

「教えてもらう」から「自ら学ぶ」へ

①　「せどやま市場」や芸北オークガーデンの「薪ボイラー」を見学し，ゲストティーチャーに「せどやま再生事業」の仕組みを教えてもらうことから学習を始めていた。

↓

この学習は活動内容が面白く，児童は興味をもって行うので，まずは試しに活動してみることにした。その中で出てきた「せどやま再生事業」についての疑問を，児童からゲストティーチャーに質問して解決するようにした。

⬇

地域事業と自分たちが行った活動を結び付けて考えることができ，理解しやすかった。また，自分たちの疑問を解決したいという思いから，児童が前のめりで学ぶことができた。

②　１回目の活動は６年生と一緒に行い，のこぎりの使い方や木の運び方等を６年生から学べるようにしていた。

↓

１回目を試しの活動として５年生だけで行うようにし，たくさん失敗をさせ，そこから学ぶことができるようにした。

⬇

クラス目標に全く届かなかったことで児童の心に火がつき，「協働する」とはどういうことかを深く考えるきっかけになった。

③　活動の途中に「知恵袋タイム」という，ゲストティーチャーや保護者サポート隊からアドバイスをもらえる時間を設定していた。

↓

「知恵袋タイム」を「作戦タイム」に変えて，現時点までの活動を振り返り，次の活動をどのように改善していくか話し合うことができるようにした。大人は，活動中も作戦タイム中も，グッと我慢して見守りに徹し，児童から質問や応援要請があれば，支援した。

⬇

声をかけてもらうまで待つ姿勢でいた児童が，自分から質問したり助けを求めたりと，課題を解決するために自ら行動することができるようになってきた。

より客観的で深いふりかえりへ

①　活動終了後すぐに，「くやしい」「もっとこうすれば…」等のあふれる思いを書く時間をとる。

⬇

普段なかなか自分の思いが書けない児童も，どんどん書き進め，具体的に振り返ることができた。

②　活動中の写真はもちろん，児童の行動や発言も指導者が記録しておき，振り返りの時に活用した。

⬇

児童の振り返りと指導者の記録を基に授業を構成することができ，自分を客観的に見つめ直させたり，友達の考えを聞いて考えを深めさせたりすることができた。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

○単元のブラッシュアップを行うことで，児童生徒が主体的に学ぶ姿が多く見られるようになった。（「えがく」学習において，課題意識や必要感をもっている児童生徒85%，振り返った内容を次に生かそうとしている児童生徒100%）

○ブラッシュアップした単元において，ねらいとする資質・能力を身に付けている児童生徒は90%であった。

○単元の「ふりかえる」場面を中心に授業研究を行うことで，自己の成長や課題とその理由を具体的に振り返らせる手立てについて学び合うことができた。

○ルーブリックを作成することで，めざす児童生徒の姿が明確になり，指導や評価に生かすことができた。

○全学年，生活科・総合的な学習の時間のメイン単元のルーブリックを作成し，評価することを通して，ルーブリックや単元計画の改善点が明らかになった。

（２）課題

①一人一人の振り返りや全体での話し合いを，更に深める手立てが必要である。

②育成したい資質・能力が多いこと，ルーブリック評価が煩雑であることから，ルーブリックを指導や評価に効果的に生かすことができていない。

（３）今後の改善方策等

①振り返りの書かせ方を小中で統一するとともに，指導者一人一人のファシリテート力を磨くための研修を行う。

②単元や学年ごとに，育成したい資質・能力の重点を決める，チャート形式にする等の工夫をする。また，ルーブリック評価を行う場面や方法について，検討していく。